

高等学校 令和5年度（1 学年用） 教科 探究基礎 科目 探究基礎

教 科： 探究基礎 科 目： 探究基礎 単位数： 1 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： （1 組：石黒・島田）（2 組：近江屋・間杉）（3 組：伊東・紫村）（4 組：小野寺・下山）（5 組：手塚・今井）（6 組：東宮・手塚）

使用教科書： （ 人間としての在り方生き方に関する教科『人間と社会』 ） （7 組：菅原・高橋文） （8 組：高橋央・森下）

教科 探究基礎 の目標：
【知 識 及 び 技 能】 ・「問い」の出し方や探究活動の考え方について考察させる。・グループワークやマインドマップの作製により設定課題について多面的・多角的に考察する。
【思考力、判断力、表現力等】 ・課題に対して、様々な立場から検討し、想像力を養うとともに、他者性を踏まえた課題解決について理解を深める。
【学びに向かう力、人間性等】 ・自己の興味関心や社会的意義を検討して自己の探究課題について考察し、社会の諸問題を主体的に解決しようとする姿勢を養う。

科目 探究基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・「問い」の出し方や探究活動の考え方について考察させる。 ・グループワークやマインドマップの作製により設定課題について多面的・多角的に考察する。	・課題に対して、様々な立場から検討し、想像力を養うとともに、他者性を踏まえた課題解決について理解を深める。	・自己の興味関心や社会的意義を検討して自己の探究課題について考察し、社会の諸問題を主体的に解決しようとする姿勢を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	学びの深め方	・知識構成型ジグソー ・バタフライチャート ・トライアングルディベート ・図書館の活用 ・マインドマップ ・文章の書き方講座	【知識・技能】 ・取り組む姿勢。 【思考・判断・表現】 ・自己表現、傾聴の姿勢。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・各作業への積極的な取組。 ・レポートの作成	○	○	○	6
	スマートスクール端末の活用	・端末設定準備 ・端末設定 ・端末の使い方	【知識・技能】 ・端末設定 ・端末の使い方	○			1
	A 探究	・リサーチスキル、問いの出し方 ・A 探究ブレ ・A 探究	【知識・技能】 ・マインドマップ ・文献リスト ・ND C 整理 【思考・判断・表現】 ・文献紹介 ・A 探究計画作成 ・A 探究総合評価 【主体的に学習に取り組む態度】 ・リサーチスキルの向上	○	○	○	10
2 学 期	A 探究	・A 探究結果共有 ・A 探究結果相互評価	【知識・技能】 ・A 探究レポート作成の基本となるスキル 【思考・判断・表現】 ・A 探究レポート作成 【主体的に学習に取り組む態度】 ・A 探究への取り組む姿勢 ・A 探究、相互評価への取組	○	○	○	2
	B 探究 (課題解決プロジェクト)	・B 探究課題の取組 ・B 探究中間発表 ・B 探究成果発表準備	【知識・技能】 ・B 探究レポート作成の基本となるスキル 【思考・判断・表現】 ・B 探究スライド作成 【主体的に学習に取り組む態度】 ・B 探究へ協力し、取り組む姿勢 ・B 探究成果発表への取組	○	○	○	10
3 学 期	B 探究 (課題解決プロジェクト)	・B 探究課題の取組 ・B 探究成果発表準備 ・B 探究成果発表	【知識・技能】 ・B 探究レポート作成の基本となるスキル 【思考・判断・表現】 ・B 探究スライド作成 【主体的に学習に取り組む態度】 ・B 探究へ協力し、取り組む姿勢 ・B 探究成果発表への取組	○	○	○	11
							合計 40

高等学校令和5年度（2学年用）教科 探究 科目 課題探究

教科： 探究 科目： 課題探究 単位数： 1 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： 門・酒井・藤野・梶原・住司・青山・幸原・足立・桑江・植木・長倉・加藤圭・加藤文・新谷・坂本・宇佐見

使用教科書： （ 探究ガイドブック2022 ）

- 教科 探究 の目標：
- 【知識及び技能】 探究のプロセスや資料活用の方法および引用の作法や研究倫理について理解している。
 - 【思考力、判断力、表現力等】 探究を計画して実践し、収集した資料を適切に分析して、考察の結果を表現することが出来る。
 - 【学びに向かう力、人間性等】 自己理解をもとに課題を設定し、必要に応じて修正を加えながら探究しようとしている。

科目 課題探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○探究のプロセスについて適切に理解している。 ○諸資料を活用して、適切に情報を整理することが出来る。 ○研究倫理や引用の作法等について理解し適切に実践することが出来る	○諸資料から適切に課題を設定することが出来る。 ○適切な探究方法や手法を選択し、その結果を適切に分析することが出来る。 ○調査結果を論文とスライドの形式で適切に表現することが出来る。	○自らの興味関心や進路希望などに関連づけて課題を設定しようとしている。 ○対話などを通じて、自己の探究を修正し、高度なものにしようとしている。 ○計画を実践するとともに、必要な調整を続けようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 探究課題の設定 【知識及び技能】学問分野に関連づけて課題を設定する。 【思考力、判断力、表現力等】先行研究を踏まえて探究可能なRQを設定する。 【学びに向かう力、人間性等】対話を通じ探究課題について理解を深めようとする。	・探究オリエンテーション ・プロットシートの作成	【知識及び技能】学問分野に関連づけて課題を設定している。 【思考力、判断力、表現力等】先行研究を踏まえて探究可能なRQを設定している。 【学びに向かう力、人間性等】対話を通じ探究課題について理解を深めようとしている。	○	○	○	5
	B 単元 ゼミ活動計画・研究計画の作成 【知識及び技能】学問分野の特性に合わせて研究計画を作成する。 【思考力、判断力、表現力等】研究手法を組み合わせた見直しを持って研究計画を立てる。 【学びに向かう力、人間性等】対話を通じ探究課題について理解を深めようとする。	・探究手法ワークショップ ・仮ゼミ活動 ・統計講座応用 ・ゼミ活動 ・個人計画の作成	【知識及び技能】学問分野の特性に合わせて研究計画を作成している。 【思考力、判断力、表現力等】研究手法を組み合わせるとともに、手法や日程など見直しを持って研究計画を立てている。 【学びに向かう力、人間性等】対話を通じ探究課題について理解を深めようとしている。	○	○	○	8
2 学 期	C ゼミ活動の実行 【知識及び技能】周辺知識に基づき、調査や実験などを行うことで適切に情報を収集することが出来る。 【思考力、判断力、表現力等】収集した情報を適切に分析するとともに、考察の結果を表現することが出来る。 【学びに向かう力、人間性等】対話を通じ探究課題について理解を深めようとする。	・個人研究の実施 ・ゼミ活動 ・中間発表	【知識及び技能】周辺知識に基づき、調査や実験などを行うことで適切に情報を収集している。 【思考力、判断力、表現力等】収集した情報を適切に分析するとともに、考察の結果を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】対話を通じ探究課題について理解を深めようとしている。	○	○	○	14
3 学 期	G 個人論文集の作成 【知識及び技能】引用や表記のルールを踏まえて論文や要旨を作成できる。 【思考力、判断力、表現力等】調査や考察の結果を論文形式で表現することが出来る。 【学びに向かう力、人間性等】相互発表・相互評価を通して、自他の研究の高度化に粘り強く取り組んでいる。	・論文提出 ・論文相互点検 ・論文要旨(アブストラクト)作成	【知識及び技能】引用や表記のルールを踏まえて論文や要旨を作成している。 【思考力、判断力、表現力等】調査や考察の結果を論文形式で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】相互発表・相互評価を通して、自他の研究の高度化に粘り強く取り組もうとしている。	○	○	○	4
	F 成果発表 【知識及び技能】引用や表記のルールを踏まえて発表資料を作成できる。 【思考力、判断力、表現力等】オーディエンスや発表形式に合わせて研究成果を表現することが出来る。 【学びに向かう力、人間性等】オーディエンスや発表形式に合わせて表現方法を工夫しようとする。	・探究成果発表会	【知識及び技能】引用や表記のルールを踏まえて発表資料を作成している。 【思考力、判断力、表現力等】オーディエンスや発表形式に合わせて研究成果を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】オーディエンスや発表形式に合わせて表現方法を工夫しようとしている。	○	○	○	4
							合計 35

令和5年度 授業実施計画書

学 年	3 年
教 科 名	探究
科 目 名	課題探究
単 位 数	1
必修選択区分	自由選択
使用教科書	
使用副教材	探究ガイドブック2021

組	科目担当者
1	島津 聡
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

学習の目標	1 学期	自己理解に基づき課題を自ら設定し、習得した知識を活用できる。 下級生とのコミュニケーションを通じて、他者の思考を引き出すファシリテーション能力を高める。
	2 学期	ゼミでの下級生指導自他の理解を深めるとともに諸課題について、論理的な思考ができるようになる。 論文作成や中間発表を通じて、論理的な表現や質疑応答の方法、またそれらを通じて、研究を一層高度なものにする力を身につける。
	3 学期	個別指導
担当者からのコメント		課題探究Aは、自らの進路実現や進学先での研究に見通しを持ち、自ら追究する方法を選択して実行する科目です。日頃の教科学習で習得した知識や見方・考え方を生かしながら、より高度な研究を目指していきましょう。

成績評価	観点	探究プロセスを適切に実行することが出来る。 多面的・多角的に考察し、論理的に表現することが出来る。 質疑応答などを通じ、他者の問いに関心を向け、貢献することが出来る。
	方法	授業の取り組む、リフレクションの取り組み、各プロセス毎の提出物をルーブリックに基づいて評価する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期			ファシリテーション研究	文献リスト・レジュメ プロットシート 探究計画書
				ゼミ活動計画	
	2 学期			ゼミ活動の実行	論文途中経過 中間発表資料
				探究論文の執筆	
	3 学期			探究成果発表会 発表資料の作成	最終論文提出 アブストラクト提出 発表スライド

東京都立八王子東高等学校